



千葉労働動力

全国からの支援にこたえ

飛躍をかけて98年を闘おう

九八年団結旗開き 中野委員長あいさつ(要旨)

九八年はまさに、労働者が団結を固め、闘って闘う方向性をきちんとしないと生きていけない、そういう時代に入ったんだということについて、冒頭申し上げたい。

九七年は、九月二三日、日米でガイドラインの見直しが調印され、明らかに今までの戦後の安全保障政策一防衛政策を飛び越えたものだ。明らかに日本が近隣諸国のみならず世界に向かって国境の外に戦争をやることを宣言したということだ。従って、戦後のさまざまな在り方が一変するということ認識しなければならぬ。

資本主義体制の崩壊が始まった

昨年末、八七年のブラックマンデー以来一〇年目を期して世界株価同時暴落が、世界で唯一の成長センターといわれているアジアから発せられ、日本を直撃した。北海道拓殖銀行、山一証券など、トップクラスの企業が事実上倒産するという中で、

九八年は幕を開けた。この事態は、明らかに資本主義体制の崩壊が始まったと言っても過言ではない。

従って、こういう時代では今までの在り方は変わるわけで、労働組合もそういう時代に対応する質をもって労働運動をつくらなければならない。

そういう中で動労千葉は、二八名の対する労法解雇の全面撤回という戦後の労働運動のなかでも画期的な勝利を獲得することに成功した。その上でわれわれは、九月の第二五回大会において、今日の労働運動の現状のなかで本場に闘う労働運動をもう一回つくりあげようというスローガンに合わせて「新しい世代の動労千葉をつくろう」ということを提起した。そして二月九日、日比谷野音に全国の仲間三八二〇名の労働者が結集して、今日のきなきない情勢の中で、本場に六〇年、七〇年を上げる「第三次安保・沖繩闘争」をつくろうをスローガンにした集会をやって大成功を勝ち取った。

そのうえでわれわれは九八年を迎え撃っているが、大変な情勢が訪れている。年度末に向かつてゼネコンも含めた大企業の倒産が起こっても不思議ではない情勢だ。

政治的にも、鳴り物入りで登場した新進党が六分解して統一会派ができ、自民党も含めて政界再編は必至の状況と見なければならぬ。

一〇四七名の闘いは全労働者の課題

そのうえで、何よりも重大なことは、一〇四七名一動労千葉一二名の解雇撤回を中心とする清算事業団闘争の問題である。

昨年末、東京地裁で国労に対して一〇四七名の和解案が提起された。それと平行して政府・与党も長期債務二兆兆円の処理と一〇四七名の政治的解決が一応合意に達している。そして、国鉄清算事業団が今年の十一月一日に解散する。一〇四七名の仲間たちは、九〇年四月付けで清算事業団から解雇されたという関係になっているので、清算事業団の解散という情勢を受けて一〇四七名問題が否応無しに最大の正念場、決戦中の決戦を迎えることになる。

この闘いは、一人われわれ国鉄労働者だけでなく、日本の労働者全体に影響を与えることは必至の課題であり、原則に踏まえて闘っていくことが求められている。

加えて、十一年にわたって運転職場から強制配転されている仲間たちを取り戻し、昨年未から署名運動という形で展開している。この運動をさらに強

化して三月の春闘時期、あるいは一〇四七名問題と結合して運転職場に取り戻す道筋をなんとかしてつくりあげなければならぬ。

労働者の闘う道筋をつくりだそう

いずれにしても九八年は、何が起こってもおかしくない情勢だ。こういう状況の中で労働組合の任務はおのずからはつきりしている。われわれはこの十年間、分割民営化の二波のストイキ以降、本場に団結を固めて闘いぬぎ、その中から労働者の連帯を学び、そして労働者として人間として誇り高く生きていくことの大切さを学んできた。そういうことが今の日本労働者には絶対に必要ではないかと思っている。

われわれは、この十年間、全国の多くの仲間達から受けた支援にこたえ、闘いの道筋をつくりだすために全力をそそぐ必要がある。そういうことで九八年は、動労千葉にとっても重大な飛躍をかけた年になることから、従前にもまして団結を固め闘っていくことを心から要請した。

激電・メッセージありがとうございました

- ◆全建連連千葉建設労働組合 ◆全金本山労働組合 ◆動労西日本 ◆全国一般富山・北陸リコー労組 ◆北陸労組交流センター ◆北富士忍草母の会 ◆部落解放同盟全国連合会 ◆部落解放同盟会茨城県連合会 ◆部落解放同盟全国連合会 ◆奈良 ◆部落解放同盟全国連合会 ◆長野県連連備会 ◆部落解放同盟全国連合会 江戸川支部 ◆